

1人の首切りも許さない

# N関労東 2019.1 No85

東日本NTT関連合同労働組合

東京都千代田区神田司町2-15-9 武蔵野ビル2階 NPO法人労働相談室内  
TEL (03) 6273-7115 FAX (03) 5577-7263  
E-mail info@n-kanrou.com http://www.n-kanrou.com

■発行責任者: 奥山 信義 ■編集責任者: 田原 博

## 利益を正当に利用者と働く者に還元せよ がんばろう春闘！ N関労に入り要求の実現へ

NTTデータと比べると=利益倍増のNTT東日本だが、ボーナスは低水準

表1: NTT東日本の財務とボーナス支給額

年度	当期純利益(億円)	ボーナス(千円)	社員数(人)	配当金支払(億円)	配当性向(%)
14	695	1,345	5,000	335	48
15	1,187	1,345	4,800	1,335	112
16	1,496	1,415	4,850	593	40
17	1,524	1,494	4,700	1,496	98
18	-----	1,544	-----	-----	-----
累計	4,902	7,143	-----	3,759	77

(注)累計の配当性向は4年間の平均値

表2: NTTデータの財務とボーナス支給額

年度	当期純利益(億円)	ボーナス(千円)	社員数(人)	配当金支払(億円)	配当性向(%)
14	417	1,589	11,110	168	40
15	642	1,649	11,213	196	31
16	745	1,694	11,227	210	28
17	668	1,704	11,263	210	32
18	-----	1,732	-----	-----	-----
累計	2,472	8,368	-----	784	32

(注)累計の配当性向は4年間の平均値

低すぎるNTT東日本のボーナス  
利益の大半が持株会社へ移されている

東日本の当期純利益は4年連続で最高を記録し利益は倍増、ボーナスはこの5年間で20万円増えました(表1)。ところがNTTデータと比べると、東日本の方が利益は2倍で社員数は半数以下にもかかわらず、ボーナスは今年が19万円ほど安く、この5年間の合計では20万円超も低くなっています。東日本は利益の80%近くを持株会社への配当金にまわすことを止め、正当に利益を還元すべきです。

### 労働者への利益の還元が極めて不十分だ ＝昨年末の東日本交渉で追及＝

**(組合)** 今春のボーナスの妥結内容は、40歳一般職1級モデルで東日本が約154万円、NTTデータは約173万円と19万円の格差があるが、ここ数年間では東日本の利益はデータに比べ2倍。なぜ東日本が19万円も低いのか。

**(会社)** NTTデータと比較する必要はないと思う。我々としては、この3年間でボーナスを20万円増やしている。このことに対して、組合はどのような評価をしているのか。

**(組合)** ボーナスは増えてはいるが不十分だ。東日本の純利益は、データに比べてこの3年間は2倍。これを踏まえて、わずか10万円のボーナス増額を要求している。

**(会社)** 会社としてはギリギリの額だ、認識が合わない。

**(組合)** 基本的にボーナスは業績に連動するもの。従って、業績が上がればボーナスが上がっていくのは自然だと思っている。

**(会社)** はい。

**(組合)** しかし、業績については他社と比較しないのであれば、東日本が20万円上げた根拠はなにか。

**(会社)** 業績が上がっているので会社の経営判断として、応分の還元をしている。業績が下がった時も、一気に社員の生活を苦しめるような下げ方をしていない。

**(組合)** 2002年の退職・再雇用制度では、月例賃金が30%も一気に下がり、ボーナスも一気に下がった。

**(会社)** 沈黙。

**(組合)** 配当金が他社に比べて極端に多すぎる。労働者や利用者に利益を正当に還元するように強く求める。

### ギリギリの額と うそづく東日本

昨年12月の東日本交渉で、NTTデータと比べると、東日本の純利益は2倍にもかかわらず、ボーナスが低

水準なことについて会社は、ボーナスは業績に連動するものとの基本的な認識を示したものの、①他社と比較する必要はない。②会社としてはギリギリの額だ、等と説得力のある説明は一切ありませんでした。

NTTグループの賃上げは、基本賃金は主要6社同額、ボーナスは業績に連動する形をとってきました。しかし東日本のボーナスは、データと比べ余りにも低く不当とさえ言えます。

また、東日本は持株会社への配当金(表1の「配当金支払い額」)が極めて多く、この4年間の平均では純利益の77%が持株会社の配当金にあてられています。N関労に入り、こうした経営を転換させ今春闘で諸要求を勝ち取りましょう。

■表の用語説明■  
「配当金支払い」とは、東日本は持株会社、データは一般株主への配当金の支払い額。  
「配当性向」とは、当期純利益にたいして配当金支払い額の占める割合。  
東日本は極端に高い。

### あなたの悩みを 一緒に解決します

- こんなことはありませんか
- 突然解雇を告げられた
  - 残業代がもらえない
  - セクハラ、パワハラを受けた
  - 労働時間が延長された
  - 有給休暇がもらえない
  - 賃金の支払が遅れている
- など

秘密厳守  
労働相談ホットライン  
03-6273-7115

### 持株会社への巨額配当

また、東日本は持株会社への配当金(表1の「配当金支払い額」)が極めて多

# 正規、非正規に関わらず 同じ仕事なら均等待遇が当たり前

非正規労働者の  
待遇改善へ動きだす

昨年6月、働き方改革法案が可決され、正規労働者と非正規労働者との待遇格差の是正に向けて、今後、「同一労働同一賃金」のガイドラインや省令が策定され、大企業は20年4月から格差是正を実施することになります。

基本賃金は  
格差容認の傾向

格差是正のガイドライン案の対象は、基本賃金、昇級、ボーナスをはじめ、各種手当や福利厚生などです。



しかし、同案では基本賃金に関わる待遇の格差は容認の傾向が強いといえます。

例えば、同じ仕事であっても、責任の程度や配転の有無などによって、熟練のパート労働者より、新規採用の正社員の賃金が高くて不合理ではないといわれています。

各種手当などは  
均等待遇を求める

また、ガイドライン案では、通勤手当、出張旅費、食事手当などの各種手当の他、病気休暇や慶弔休暇についても、正規労働者と非正規労働者を同一に扱うことを求めています。

均等待遇の目的は  
非正規の待遇改善

ある大手企業は、正規労働者の待遇を引き下げることで、「格差解消」をするという強欲ぶりを

露わにしましたが、同案では正規労働者の待遇を引き下げることで格差解

表3: 60歳超え契約社員の労働条件比較

	フルタイム		週4日
	月給制	時給制	勤務以下
創立記念日	○	×	×
週休変更手当	○	×	×
外勤手当	○	○	×
サポート手当	○	○	×
年金特別措置	○	○	×
シニアドック	○	×	×
夏季休暇(3日)	○	×	×

消をするのではなく、非正規労働者の待遇を改善することが目的であることを明確にしています。

NTTも格差是正せよ

こうした流れのなかでハマキョーレックス訴訟で最高裁は、正規労働者

## 国民には増税

## 大企業は減税

図1: 法人減税の穴埋めに使われてきた消費税 (1989~2018年度の累計)



と非正規労働者との間で、通勤、作業、給食、無事故、皆勤の各種手当について格差があるのは不当との判断を示しました。NTTにおいても、同様の問題に加えて、時給制と月給制の格差(表3)の是正についても求め交渉を行っていきます。

消費税率導入から18年度までの累計税収は372兆円。これと同じ時期の法人税減税は291兆円です。つまり、消費税は社会保障財源ではなく、法人

## 時差ビズは強制しない



2020オリ・パラを見据えて東京都が交通機関等の混雑緩和を推進するため取組んでいる「時差ビズ」については、始業時間を7時から10時の間で変更することから、専門家からは体内時計が狂う等の問題が指摘されてきました。この「時差ビズ」にNTTも参加していますが、昨年末の交渉で東日本は、強制しないことを明言しました。

税減税の穴埋めに使われてきたといえます(図1)。こうした中で、安倍自公政権は、今年10月から消費税率を10%へ引き上げる方針を表明しました。暮らしを悪化させる増税に反対しましょう。

## 春闘アンケートにご協力をお願いします

記入後は下記の番号にFAXをお願いします。  
**03-5577-7263**

## 映画紹介 64



## タクシー運転手と約束は海を越えて 17年韓国 監督 チャン・フン

ファン) 軍事政権が実権を握ります。全大統領は、各地で民主化運動を弾圧し、光州では学生を中心の大規模なデモが起こり非常戒厳令のもと軍と民衆の大

規模な衝突に発展します。

この民衆蜂起を取材し、全世界に発信したドイツ人ジャーナリスト、ピーターと彼を光州まで乗せていったタクシー運転手、

同業者の話聞きルンルン気分です。そこで目撃する車による市民への発砲と弾圧。負傷した市民を献身的に病院に運ぶタクシー運転手たち。これらの事実を光州のタクシー運転手やジャーナリストとの心の触れ合い、彼らの勇気と使命感を積み重ねながら描きます。

政治的な問題をことさら主張せず、ユーモアと連帯の中で民主化運動の歴史を描き私たちに清々しい感動を与えてくれます。(み)